

# インストール セレクタ (GETSETUP.EXE) の使い方

## \$1. 序論

- (1) 64bit 版のソフトウェアの CD/DVD と 32bit 版のソフトウェアの CD/DVD とがあって、両方が入った 1枚の CD/DVD が欲しい、或いは、
- (2) 1枚の CD/DVD に (64bit 版のソフトウェアと 32bit 版のソフトウェアの) 両方が入っているのだが、(CD/DVD 装置に装填した時に) 黙って 32bit 版のソフトウェアのインストーラが起動するので困る、と云うような要望に (多少でも) 応えるものです。

## \$2. 準備(その1)

PC の HDD/SSD 上の、(中身が空の) 適当なフォルダー (例えば) TEMP33 に、  
「サブフォルダー (例えば) X64」と「サブフォルダー (例えば) X86」とを作る。

「サブフォルダー X64」に 64bit 版のソフトウェアが収納された CD/DVD の全体をコピーし、  
「サブフォルダー X86」に 32bit 版のソフトウェアが収納された CD/DVD の全体をコピーする。

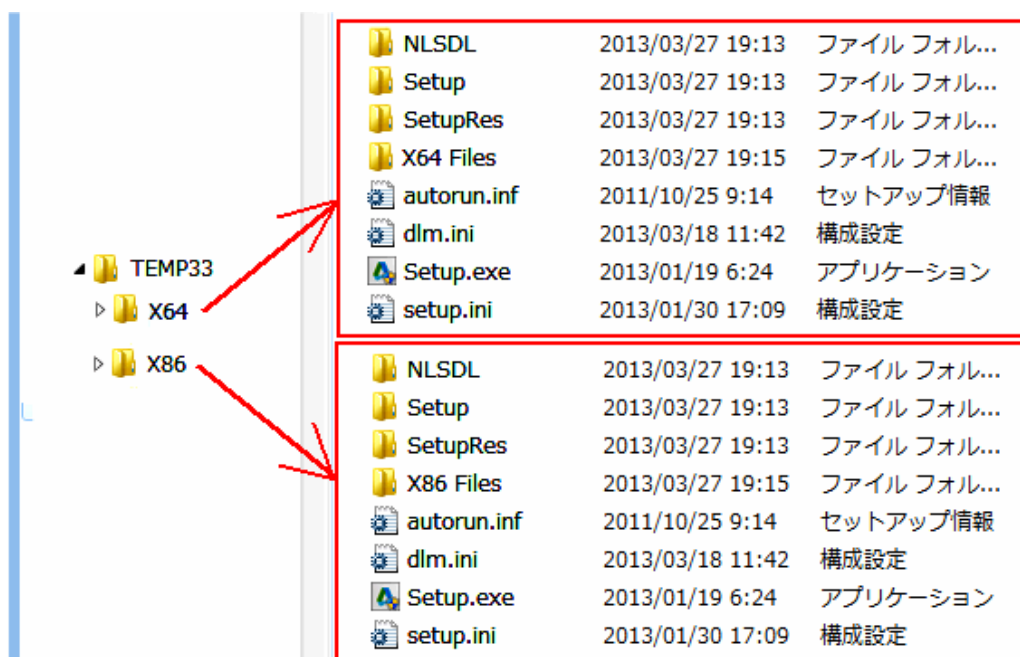
註:「サブフォルダー X64」に 64bit 版のソフトウェア(但し、ISO ファイル)を 解凍・展開しても良い。  
「サブフォルダー X86」に 32bit 版のソフトウェア(但し、ISO ファイル)を 解凍・展開しても良い。

と云う事で、

TEMP33¥X64 には 64bit 版のソフトウェアが収納された CD/DVD の全体が存在する事になり、  
TEMP33¥X86 には 32bit 版のソフトウェアが収納された CD/DVD の全体が存在する事になる。

TEMP33¥X64 には 64bit 版のソフトウェア用の Autorun.inf / setup.exe / setup.ini / 等 が在り、  
TEMP33¥X86 には 32bit 版のソフトウェア用の Autorun.inf / setup.exe / setup.ini / 等 が在る。

下図を参照してください。



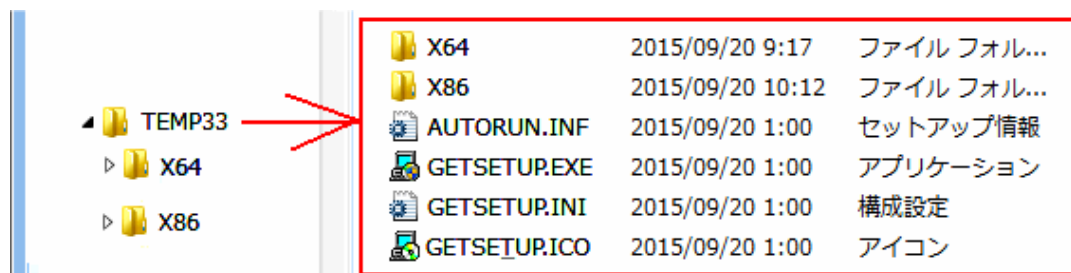
### \$3. 準備(その2)

次に、「フォルダー TEMP33」に、

AUTORUN.INF  
GETSETUP.EXE  
GETSETUP.INI  
GETSETUP.ICO

を入れる。

上記は、下図を参照してください。



AUTORUN.INF、GETSETUP.EXE、GETSETUP.ICO  
は、支給されたものを、そのまま使用する。

GETSETUP.INI は、メモ帳などを用いて、自分で作成  
する(下に示す例を参照してください)。

#### GETSETUP.INI の例 (メモ帳などを用いて、自分で作成する)

[Path]

x64App=X64¥¥Setup.exe

x86App=X86¥¥Setup.exe

64bit 版のソフトウェアが収納  
されたサブフォルダー名 + 当  
該ソフトウェアのインストール用  
実行ファイル名、とする。

32bit 版のソフトウェアが収納されたサブフォルダー名 + 当  
該ソフトウェアのインストール用実行ファイル名、とする。

「X64¥¥Setup.exe」、「X86¥¥Setup.exe」は 一例であり、実際に作成する「サブフォルダー名」と、実際に存在する「当該ソフトウェアのインストール用実行ファイル名」とに 依存する。

例:

- (1) 「Soft64bit」と云うサブフォルダーを作り、ここに 64bit 版のソフトウェアを入れ、このソフトウェアのインストール用実行ファイルが「set-up64.exe」であり、
  - (2) 「Soft32bit」と云うサブフォルダーを作り、ここに 32bit 版のソフトウェアを入れ、このソフトウェアのインストール用実行ファイルが「set-up32.exe」である、
- と(仮に)すれば、この場合は、GETSETUP.INI の 中身は、

[Path]

x64App=Soft64bit¥¥set-up64.exe

x86App=Soft32bit¥¥set-up32.exe

となる。

#### \$4-1. メディアの作成 [CD/DVD]

準備が完了したら、CD/DVD を作成するソフトウェア（例えば、CDBurnerXP や ImgBurn など）を利用して、“TEMP33” に存在する所の「中身全体」を、CD/DVD に 書き込む。

註:「64bit 版のソフトウェア+32bit 版のソフトウェア」の全体が、(例え)約 8GB であっても、8.5GB の DVD メディアを使えば 問題ない（通常のソフトウェアでは、64bit 版+32bit 版で、約 8GB を超えることは 殆ど無い）。



#### \$4-2. メディアの作成 [USB メモリー]

CD/DVD の作成では無く、USB メモリーを作成しても良い（“TEMP33” に存在する所の「中身全体」を、「中身が空の USB メモリー」に 書き込む）。



---

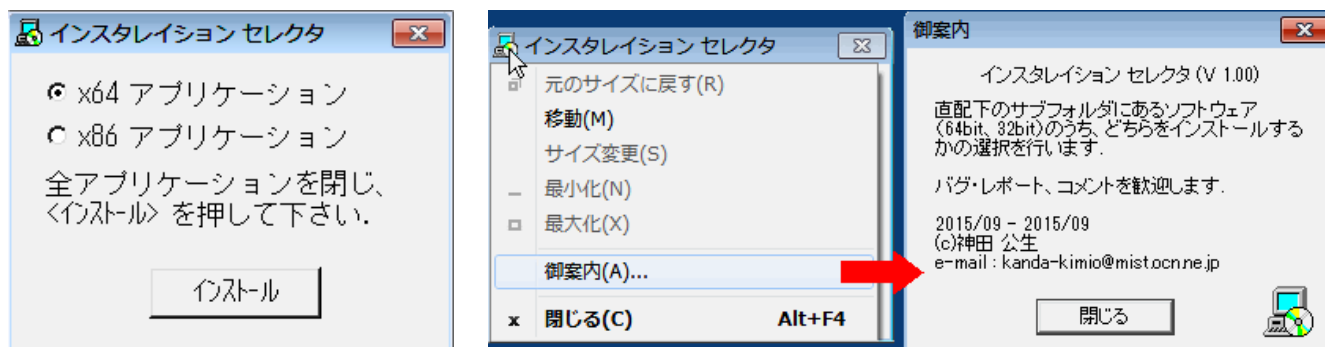
#### 重要な註:

サブフォルダー X64 (or, X86)に、64bit (or, 32bit) 版のソフトウェアを“コピー”や“解凍・展開”した場合、そのサブフォルダの階層数が大き過ぎると、これを CD/DVD や USB メモリーに 書き込んだ時に、(見掛け上は、書き込みが 正常完了しても) 不具合が生じ、使用不可となる事がある。

稀に存在する所の「このような特性を有するソフトウェア」では、種々の“細工”は出来ない事になる。

---

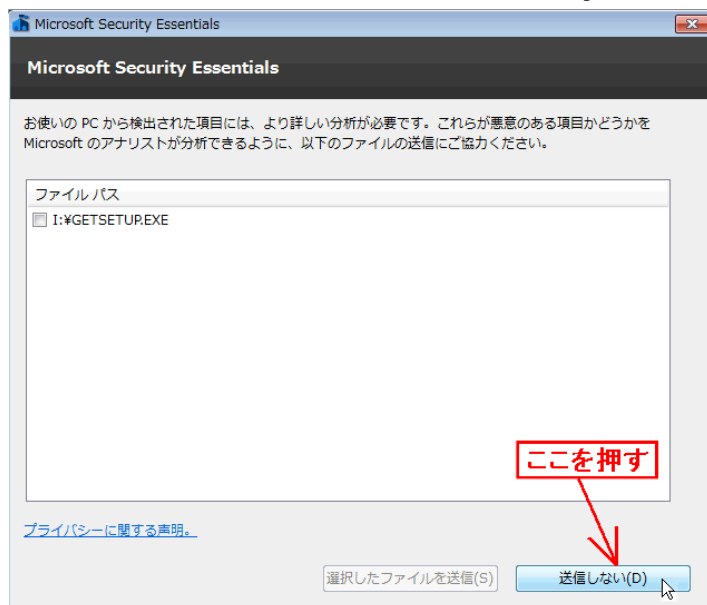
#### \$5. インスタレーション セレクタ の画面



#### 註:

サブフォルダー X64 に存在する 64bit 用アプリケーションソフトウェアの持つ「setup.exe」自身が、64bit コンパイラで構築されていない場合もあり、この時には、例え OS が 32bit であっても（この「setup.exe」自身が 32bit 版なので）「setup.exe」が起動できてしまうので、注意が必要です。言い換えれば、サブフォルダー X64 に在る「64bit 用アプリケーションソフトウェア用の setup.exe」は、64bit コンパイラ で 作成すべきですね。

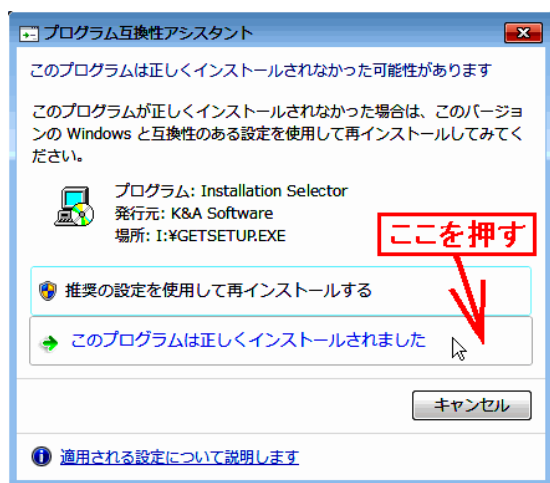
## \$6-1. その他(1) --- Microsoft Security Essentials を使用している時 ---



(上記の手順でファイル類を書き込んだ所の)CD/DVD や USB メモリー を使った「初めての起動」を行った時に、左に示すような警告メッセージが出ることもある。

この場合は、「送信しない(D)」を押すのが良いと思いますが・・・。

## \$6-2. その他(2)



(上記の手順でファイル類を書き込んだ所の)CD/DVD や USB メモリー を使った「初めての一連の操作」が終了した時に、左に示すような警告メッセージが出ることもある。

この場合は、「このプログラムは正しくインストールされました」を押すのが良いのです。

蛇足：本ソフトウェアは、英語 OS の時は 表記が英語となり、英語 OS でも使えます。  
英文説明書は、同梱の “How to use GETSETUP.PDF” です。